

2010年（平成22年）7月22日 木曜日

塾経営店舗空き

# 商売1年生がこつこつ伝授

## 「新聞広告や口コミで集客」

松阪市が、中心商店街の空き店舗に出店する人を応援する取り組みの一環で開いた「まちなか開業塾in松阪」の最後の授業が21日、昨年度中に空き店舗に出店した2軒のカフェで行われた。一足先に出店した先輩経営者に体験談を聞く趣向で、しかも先輩らは全員、商売は初めてという人ばかりとあって、これから出店しようという受講生は勇気をもらっていた。

市商店街空き店舗等出展促進補助金は、市が昨年度から独自に始めた空き店舗対策。開店に当たっての改装費の半額（最高150万円）と、1年間に限り月々の家賃の半額（5万円まで）を助成する。今年度分の締め切りは8月13日だ。

市商店街空き店舗等出展促進補助金は、市が昨年度から独自に始めた空き店舗対策。開店に当たっての改装費の半額（最高150万円）と、1年間に限り月々の家賃の半額（5万円まで）を助成する。今年度分の締め切りは8月13日だ。

「まちなか開業塾は、商売を始めるに当たって、不安を取り除いてもらおうと、今年度初めて開いた。講師は伊勢市の経営コンサルタントの三田泰久さん（41）だが、最終の今回、三田さんは脇に控え、昨年度の出店者が代わる代わる体験や思いを語った。



立って体験談を語る飯柴さん（後方右端）＝日野町のぴのまちカフェで

受講生に体験を語り、質問に答えていった。受講生から「どうやって客を集めたのか」という質問に、飯柴さんは「塾は1回行ったらずっと続けなければならぬので、親は安心できる所に子どもを預けたいと思う。だから、ここに安心

して預けられる塾があるということを知ってもらうための経費はけちらず、新聞広告はほとんど入れようと思っている。生徒に教えられて夕刊三重に入れているが、割と安くできるといのがわたしの感覚」と答えていた。

一方で菅原さんは「食べていただかないとおいしさが分からないので、ぜひ食べて口コミで広めてほしい。口コミだけが頼り」と。受講生らは、経営者の考え方や、職種によってもやり方が違うことを知って、うなずいていた。